

『ヒスタグロビン注射に関する説明・同意書』

1, ヒスタグロビンとは

ヒスタグロビンは、アレルギー疾患（アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚疾患、気管支喘息など）の治療に使用される注射薬です。

2, ヒスタグロビン使用の利点と副作用

ヒスタグロビンは、アレルギー疾患に関わりが深い白血球の一つである好酸球数を減らして、症状を和らげます。また、アレルギー症状を引き起こす体内物質のヒスタミンの放出を抑え、ヒスタミンに対する抵抗力を与えます。

副作用として、0.1%～5%にアレルギー症状の悪化、眠気、頭痛、発熱、注射部の痛み。0.1%未満で咳、呼吸困難、くしゃみ、めまい、動悸、吐き気、腹痛、GOT・GPTの上昇、注射部位の硬結・発赤、のぼせ、気分不良、倦怠感。その他、しびれ感、嘔吐があります。まれに、注射直後にショックの報告があります。

よって初回接種時のみ、接種後15分間は院内待機にて様子を見ます。

3, 接種方法

グロビン注射は対症療法ではないので、症状を和らげる薬も併用しながら、ヒスタグロビンを週1回、3週間（1クール）、または6週間（2クール）皮下注射します。いったん現れた効果を維持するためには、3カ月ごとに1回、注射を反復します。

4, その他

ヒスタグロビンはホルモンに影響するため、打てない方もいます。

ヒスタグロビンは人の血液成分を原料として製造している為、感染症に対するリスクを低減する為に、安全対策を施しています。

1967年に国内で発売されて以来、感染症をおこした事はありません。

なお注射を開始以降は、献血が出来なくなります。

*上記の内容を理解したので、ヒスタグロビン注射の治療に、同意致します。

令和 年 月 日

氏名

住所

いとう耳鼻咽喉科

代表 TEL 054-265-1000

院長 伊藤 純一

